

# 教育研究業績書

2023年05月08日

所属： 建築学科

資格： 准教授

氏名： 猪股 圭佑

研究分野 ビザンティン聖堂におけるキリスト教絵画によって構成された建築空間に関する研究	研究内容のキーワード ビザンティン聖堂、キリスト教絵画、墓
学位 博士（工学）、修士（工学）、学士（工学）	最終学歴 京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 図学・CAD基礎演習及び図学・情報基礎演習における建築空間の構成要素を例に用いた指導	2010年04月～2014年08月	投影図や透視図の作図法を説明する際に、教科書通りに図形だけで説明するのではなく、床・壁・天井等の、建築空間の構成要素を例に用いて説明し、図学と建築設計が関連付けられるように工夫した。
2. 建築設計実務における実際のプロジェクトへの参画	2012年4月～現在	大学院修士課程「建築設計実務」では、学生が武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として学外のプロジェクトに参画し、実務訓練を行っている。＜2012年度～2017年度＞武庫川女子大学の玄関口でもある「阪神鳴尾駅」の設計協力を行い、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討、実現した。＜2013年度後期～2014年度前期前半＞武庫川女子大学の「学校教育館」「看護科学館」「武道館」を題材とし、設計提案を行った。＜2014年度前期後半＞「パーミヤーン博物館」を題材として、海外のプロジェクトに取り組んだ。＜2016年度後期～2017年度＞尼崎の朝日エティック大阪工場敷地内の庭園を設計した。＜2017年度＞エネマネハウス2017に応募、採択され、モデル住宅「キセカエハウス」が大阪・梅田のうめきたサザンパークにて一般公開された。＜2018年度～2021年度前期＞武庫川女子大学景観建築学科新校舎の設計・監理を行った。屋外空間、自然を総合して豊かな景観を創生する教育と研究を行うため、敷地全体の整備、保存を緑化、都市景観の視点から実施している。＜2021年度後期～2022年度前期＞兵庫県立美術館にて展示会「甲子園会館に学ぶ／で学ぶ」を開催した。甲子園会館には柱やレリーフ、暖炉、シャンデリア、ガラス、棟飾りなどに幾何学による装飾が多く施されており、今回はこれらの装飾を大学院生が実測し、原寸図面を作成した。さらに建物全体を実測して立面図、断面図、矩計図を作成しながら、全体模型を制作し、またホテル当時の宿泊室をCGで再現した。同時に旧甲子園ホテルが竣工した1930年頃に流行していたアール・デコや、F.L. ライト設計の帝国ホテルなどについて調べ、甲子園会館の装飾における幾何学的デザインなどについてまとめた。以上の様々なプロジェクトにおいて、多くの専門家との打合せにも積極的に参加し、学生自らが作成した図面や模型を用いてプレゼンテーションを行っている。
3. 建築一般構造Ⅱにおける建築設計の実績を例に用いた指導	2013年04月～2013年09月	躯体と仕上げ材、異なる仕上げ材、建築と設備などの接合について指導する際に、自分が設計した事例の写真や図面を例に挙げながら説明を行った。小テストでは、説明を受けた内容に関する詳細図を学生自らが描くことで、内容の理解を深めるとともに実際の設計に活かせるようにした。
4. 世界建築史、近代建築史における、教員の説明を聞きながら記述する毎回の小テストとそのフィードバック	2014年4月～現在	授業ではできるだけ多くの写真や図面などをパワーポイントで示しながら、ビジュアルな説明を行っている。授業のレジュメを配布するとともに、教員の説明を聞きながら問題形式で学習内容を各自でメモし、さらに授業内容に関連した論述を求める小テストを毎回

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
5. 初期演習における作品のプレゼンテーション	2014年4月～2015年3月	実施している。その小テストは、コピーを取った上で、次回の授業時に学生に返却し、学生の記述について講評してフィードバックを図り、学生の知識の定着及び論理的思考能力の向上を試みている。 学生が選んだ建築作品や、各自が授業で作成した作品についてパワーポイントを作成してプレゼンテーションを行い、それに対して他の学生が質問と講評を行った。これにより、大学1年目における建築に対する意識向上や、学生同士の議論の活発化、論理的思考能力の育成を図った。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 担任業務における学生指導	2014年04月～現在	2014年度から担任を務めており、1年生より積極的な進路指導を行った。4年生45名中31名が2018年度本学大学院建築学専攻に進学した。同学年から2名が英語チャレンジコースを受講した。同学年の学生はiaSU2016国際会議でのMWU Student Poster Sessionにも積極的に取り組み、建築学科入学式や国際会議でのお茶会も主催している。2018年建築学会全国大会においては同学年の25名が卒業研究の成果について30本（設計17本、論文13本）の発表を行った。
2. 附属高校2年生対象出張講義	2015年02月～2016年02月	2015年度及び2016年度の附属高校2年生対象出張講義にて建築学専攻の授業「建築設計実務」で「阪神鳴尾駅プロジェクト」の講義を行った。
3. 学生の学会発表支援	2017年4月～ 現在	建築学会全国大会において学生の発表を支援し、共著として2017年は9本、2018年は10本、2019年は6本、2020年は7本、2021年は3本、2022年は4本の論文発表を行った。
4. オープンキャンパスにおける公開授業	2017年7月～2018年	2017年度、2018年度オープンキャンパスにおいて「建築設計演習Ⅲ」の中間講評会、「建築設計実務Ⅰ」のモザイク実習を、公開授業として多数の高校生及びその保護者を前に行った。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 一級建築士	2006年04月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 阪神鳴尾駅	2012年04月～2018年03月	阪神鳴尾駅や、看護科学館、学校教育館、武道館を題材とした建築設計実務の授業を通して、大学を含めた地域全体のあり方について考え、阪神電気鉄道株式会社や施工会社、専門業者などと協働し、設計協力を行った。阪神鳴尾駅は武庫川女子大学の玄関口であり、そこから学校教育センター、看護学部新校舎、総合心理科学館、そして中央キャンパスへと、研究や教育、文化を象徴する風景をつくりだし、地域に配慮したまちづくりに繋げることを意図し、外観、内観デザインや照明計画などを検討及び提案した。武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)を拠点として、詳細図やCGパース、模型を作成して、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討した。学外の企業との打ち合わせにも積極的に参加し、作成した図面や模型を用いてプレゼンテーションを行った。
2. エネマネハウス2017	2017年4月～2018年3月	2017年度前期、大学対抗建築コンペ「エネマネハウス

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 武庫川女子大学景観建築学科新校舎	2018年4月～2021年3月	<p>2017：学生が考える実現可能な一次エネルギー消費量ゼロの家」に応募し、実際にモデルハウスを建築する事業者として採択された。2017年度後期には京都大学、近畿大学、首都大学東京、早稲田大学+芝浦工業大学の4大学とともに、グランフロント大阪に隣接するうめきたサザンパークに省エネ住宅を建築し、一般に公開した。本プロジェクトは株式会社竹中工務店をはじめ朝日エティック株式会社など、約20社の企業から技術協力や建材、設備機器の提供を得ながら産学が連携して実施され、優秀賞と特別賞を受賞した。さらに2018年度日本建築学会大会の建築デザイン発表会で優秀発表に選ばれている。</p> <p>建築学部の教員が運営する学内に設置されている一級建築士事務所「武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ」が「景観建築スタジオ東館、西館」の設計・監理を行った。建築学研究科の授業には1級建築士の実務経験として認定されている設計実務の演習科目があり、大学院生はこの中で設計や現場管理、また周囲の庭の全体計画、植栽計画などに参加した。建物の壁面に貼った150角の装飾タイルは甲子園会館のものと同じデザインで、学生と教員が石膏型を作り、そこに粘土を詰めて各自のイニシャルを小さく彫り込み、建築学部の窯で焼成し、約7400枚を制作した。東館1階ホールに置いてあるテーブルと椅子は、ホテル時代のバーにあった豪華な椅子や机。当時の写真などを頼りに模型や原寸図を作成し、家具制作で活躍する卒業生が制作した。同時に整備した庭園では実習において植物の知識や伝統的な造園技術を修得する。建築学部では、キャンパスすべてが「生きた教科書」となり、「人と建築と自然が響き合う 景観を創生する」建築・景観設計技術者を教育している。</p>
4 その他		
1. 照明学会照明普及賞（優秀施設賞）	2010年05月21日	「東京建物仙台ビル」にて平成21年照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞
2. 大学運営に関する事項	2012年04月～現在	鳴尾駅高架下利用研究委員会、トルコ文化研究センター運営委員会、武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ運営委員会の委員を務めている。オープンキャンパスでは主に保護者への学科説明、見学引率などを担当。トルコ文化研究センター紀要論文集の編集や、東京講演会「わが国の近代建築の保存と再生」の記録冊子の編集を行った。2012年度金沢及び2014年度高松会場の地域別教育懇談会・鳴松会懇親会、2018年度徳島会場の鳴松会懇親会に出席した。
3. 高校へ出張講義	2016年06月15日	2016年度の大阪府立春日丘高校2年生対象分野別模擬授業にて建築学専攻の授業「建築設計実務」で継続中の「阪神鳴尾駅プロジェクト」の講義を行った。
4. 兵庫県立美術館における展示会「甲子園会館に学ぶ／で学ぶ」	2022年9月15日～2022年9月27日	兵庫県立美術館にて展示会「甲子園会館に学ぶ／で学ぶ」を開催した。甲子園会館には柱やレリーフ、暖炉、シャンデリア、ガラス、棟飾りなどに幾何学による装飾が多く施されており、今回はこれらの装飾を大学院生が実測し、原寸図面を作成した。さらに建物全体を実測して立面図、断面図、矩計図を作成しながら、全体模型を制作し、またホテル当時の宿泊室をCGで再現した。同時に旧甲子園ホテルが竣工した1930年頃に流行していたアール・デコや、F.L. ライト設計の帝国ホテルなどについて調べ、甲子園会館の装飾における幾何学的デザインなどについてまとめた。
5. 日事連建築賞（奨励賞・一般建築部門）	2022年10月	「景観建築スタジオ東館」にて令和4年度日事連建築賞（奨励賞・一般建築部門）を受賞

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. コーラ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成	単	2018年07月23日	京都大学	本論文は、後期ビザンティン建築の傑作の一つとされるコーラ修道院聖堂を対象に、数多くの既往論文を渉猟し、内部壁面に描かれた個々の絵画の主題とそれらの配置の統合的考察から、空間の意味の解釈を試みたものである。その成果として、コーラ修道院聖堂では聖堂建築の空間構成と絵画の意味や配置、および献堂者の意図が密接に結びついていることを詳細に解明した。14世紀のコーラ修道院聖堂では増改築によって複雑な平面になったにも関わらず、建築と絵画の一体的な計画によって献堂者テオドロス・メトキティスの「祈り」を表現する、神聖な宗教的空間が創造された。すなわち、増改築によって複雑化した建築空間において複数の絵画による意味連関が生じ、これにより建築だけでは表現することのできない神聖な宗教的空間が実現している。コーラ修道院聖堂において増改築によって生じた非整形で複雑な建築空間と、相互に繋がりを持つ絵画によって構成される意味空間が重なってそれらが互いに関係し合うことにより、3次元のビザンティンの宗教的空間をより豊かなものにしていく。
<b>3 学術論文</b>				
1. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church (査読付)	共	2011年03月	Intercultural Understanding Vol.1, pp.25~30	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにすることを目的として、分析及び考察を行った。山は、1つの画面を、聖書の物語の異なる場面に区分し、さらに、1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていることが明らかとなった。
2. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型—人物との関係に着目して— (査読付)	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集 第76巻 第670号, pp.2477~2485	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目してその類型を抽出し、それら類型の意味を明らかにすることを目的として分析及び考察を行った。山は、「人物の横にある山」では街の外の危険な世界を象徴し、「人物を縁取る山」では枠づけされた特別な意味を持つ場所を示し、そして「人物の横にある山+人物を縁取る山」では両者の特徴とともに神の世界へと繋がる場所を示していると考えられる。
3. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Monastery of Hosios Loukas (査読付)	共	2012年03月	Intercultural Understanding Vol.2, pp.25~28	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにして、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の機能と比較考察した。その結果オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画においても、コーラ修道院の場合と同様に、山は世界を区分する枠として描かれていることが考察された。
4. Significance of the Architectural Space and Mountains in the Christian Art of the Inner Narthex of the Chora Church (査読付)	共	2014年08月	Intercultural Understanding Vol.4, pp.27~35	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスのドームにおける壁画の主題及び配置を分析することによって、壁画に表現された山と建築空間の意味を明らかにすることを目的とし、モザイクで装飾された建築空間の断面展開図や合成写真を用いて、内ナルテクスの北ドーム及び南ドームで山が描かれている建築空間の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。そして建築空間に壁画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデンティブやルネットによって二つの世界を区分していたと考えられる。
5. コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画による内ナルテクスを中心とした空間構成(査読付)	共	2015年10月	日本建築学会計画系論文集 第80巻 第716号, pp.2403~2411	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院におけるキリスト教絵画の配置によって形成されている建築的空間の意味を明らかにすることを目的とし、外ナルテクス

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
読付)				
6. Design of Hanshin Electric Railway Naruo Station with Plank Sheets (査読付)	共	2017年01月	Intercultural Understanding Vol.6, pp.23~30	<p>の南出入口から内ナルテクスへ至る連続する空間及びそこに描かれた複数の絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。内ナルテクスを中心として、「神としてのキリスト」そして聖母マリアが象徴する「人としてのキリスト」を可視化し、「キリストの両性」を表現する建築的空間が絵画の配置によって形成されたことを考察した。</p> <p>猪股圭佑, 岡崎甚幸, 川口衛, 田川浩之, 杉浦徳利, 森本順子, 山口彩</p> <p>1. Introduction, 2. Design Concept of Station with Plank Sheets, 4. Summaryを担当</p> <p>阪神電車鳴尾駅における、プランクシートをシェルの構造体として用いるために行った構造実験とそれにより最低限の部材によって構成された駅舎の設計について報告した。下地材が不要なプランクシートによって壁と天井が一体となり、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える駅舎空間を実現した。</p>
7. SPACIAL COMPOSITION OF CHRISTIAN PAINTINGS IN THE CAVE CHURCHES OF IHLARA VALLEY, CAPPADOCIA (査読付)	共	2017年03月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 4th International Conference 2016, Selected Papers, pp.63~70	<p>猪股圭佑, 木島未実子</p> <p>全文執筆</p> <p>カッパドキア、ウフララ渓谷の岩窟聖堂8点において壁画の写真を合成した断面展開図を作成し、室の配置、窓や墓の位置、壁画の主題及び配置から岩窟聖堂の空間構成について分析・考察を行った。内部には全ての聖堂で“死”や“救済”を意味する壁画が、特に聖堂の西側や墓室に集中して描かれていた。ウフララ渓谷の岩窟聖堂は、聖堂と墓室を中心とし、壁画の主題及び配置によって“死”を、そして祈りを捧げる信者の魂の“救済”を意味する空間を構成している。</p>
8. コーラ修道院聖堂におけるパレクレシオンの空間構成－墓室と絵画との関係に着目して－(査読付)	共	2017年08月	日本建築学会計画系論文集 第82巻 第738号, pp.2151~2161	<p>猪股圭佑, 岡崎甚幸</p> <p>全文執筆</p> <p>コーラ修道院聖堂パレクレシオンにおける墓室と絵画との関係に着目して、キリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。断面展開図や天井見上図、内部合成写真、アクソノメトリック図を作成し、ドームにおける「聖母マリアによる執り成し」とその成就としてのアプシスにおける「キリストによる救済」を希求する、献堂者テオドロス・メトキティスの祈りを表現する神聖な空間が建築と絵画の一体的な計画によって形成されたことを考察した。</p>
9. オシオス・ルカス修道院聖堂における空間構成－墓と壁画との関係に着目して－(査読付)	単	2021年9月	日本建築学会計画系論文集 第86巻 第787号, pp.2399~2409	<p>2018年8月にオシオス・ルカス修道院のFather Gregory氏らの協力を得て実地調査を行い、ルカスの墓や出入口、壁画について検討し、空間構成の特徴を明らかにした。ナオスだけでなく北西礼拝室やナルテクスにおいても、各原理に従うように壁画が配置されていること、カトリコンとパナギア聖堂の間の東西軸線に沿ってルカスに関係する重要な壁画が配置されていること、南から北へ向かう二聖堂の空間の上に壁画の配置によって意味づけられた西から東へ向かう新たな二聖堂の空間が重なったこと、これら全てがルカスの墓の配置と関係していることを示し、聖堂におけるその墓の中心性を確認した。これらの墓と壁画との関係は、ルカスの遺体の移動と二聖堂の増改築及び接続によるものであり、墓が二聖堂に従属する空間にあったにも関わらず、建築と壁画の一体的な計画によって、ルカスの加護を求める信者の「祈り」を表現する神聖な宗教的空間が創造されたことを示している。</p>
10. ネア・モニ修道院聖堂における空間構成－壁画の主題と配置に着目して－(査読付)	単	2023年1月	日本建築学会計画系論文集 第88巻 第803号, pp.372~380	<p>2018年8月にギリシア文化省の許可を得てネア・モニ修道院聖堂の実地調査を行い、本稿ではネア・モニ修道院聖堂のナオス、ベーマ、内ナルテクスにおける壁画の主題及び配置による空間構成の分析、考察を行った。ネア・モニ修道院聖堂では「三段階理論」「円環・相称性・中軸」の原理による装飾プログラムに従って、後に十二大祭として確立する壁画が配置されている。そして「昇天」と「再臨」が個別の壁画によって、さらに別々の空間に描かれた複数の壁画によっても表現されている。「昇天」と「再臨」を表現する壁画の配置によってナオスとベーマ、内ナルテクスが繋がっていること、ナ</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
				オスにおいて壁画の配置を目的として建築の計画変更が行われた可能性があること、内ナルテクスのドームで「受肉」を表現する西から東へ向かう空間に、「昇天」「再臨」を表現する北から南へ向かう空間が重なっていること、これらによって内ナルテクスが神聖な空間として意味付けられていることを示した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. コーラ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 — 山に着目して —	単	2019年12月8日	第4回建築論研究会ワークショップ「建築の自然と聖」	京都大学で開催された第4回建築論研究会ワークショップ「建築の自然と聖」において研究発表を行った。コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画に描かれた山の意味について考察し、絵画において山が現実の世界と神の世界を繋ぐ場所であること、そして建築空間においても山が、「受肉」や「救済」の教義を表現する聖母マリアを象徴する図像とともに、現実の世界と神の世界を繋ぐ場所であることを明らかにした。
2. コーラ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成	単	2020年2月9日	日本建築学会近畿支部 建築論部会 第99回講演会	京都美術工芸大学で開催された日本建築学会近畿支部 建築論部会 第99回講演会において講演を行った。14世紀のコーラ修道院聖堂では増改築によって複雑な平面になったにも関わらず、建築と絵画の一体的な計画によって献堂者テオドロス・メトキティスの「祈り」を表現する、神聖な宗教的空間が創造された。すなわち、増改築によって複雑化した建築空間において複数の絵画による意味連関が生じ、これにより建築だけでは表現することのできない神聖な宗教的空間が実現している。コーラ修道院聖堂において増改築によって生じた非整形で複雑な建築空間と、相互に繋がりを持つ絵画によって構成される意味空間が重なってそれらが互に関係し合うことにより、3次元のビザンティンの宗教的空間をより豊かなものにしていく。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 能動的移動実験と受動的移動実験の方法について—迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その1)—	共	2002年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(北陸), pp.683~684	猪股圭佑, 須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友
2. 能動的移動と受動的移動における注視行動の比較—迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その2)—	共	2002年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(北陸), pp.685~686	須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 猪股圭佑
3. 川別に見た山の構成の発達の特徴—幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成についてその3—	共	2003年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(東海), pp.1069~1070	猪股圭佑, 柳沢和彦, 原祥子, 岡崎甚幸
4. 箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法の位置づけ—幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成についてその1—	共	2003年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(東海), pp.1065~1066	柳沢和彦, 猪股圭佑, 原祥子, 岡崎甚幸
5. 学年別に見た山の構成の発達的特徴—幼稚園児から大学生ま	共	2003年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(東海), pp.1067~	原祥子, 柳沢和彦, 猪股圭佑, 岡崎甚幸

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
での風景構成法における山の構成について その2 - 6. キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月	1068 日本建築学会大会 学術講演梗概集(北海道), pp.915~916	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを目的として、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。分析を通して、13世紀末から15世紀前半を過渡期とする、黄金地を特徴とした背景表現から自然描写を特徴とした背景表現へ、という変化があることがわかった。
7. Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church	共	2011年09月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, International Conference 2011, proceedings, pp.67~72	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物の横にある山」「人物を縁取る山」「人物が入り込む山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という5種類の山の類型が抽出された。
8. MOUNTAINS PAINTED IN CHRISTIAN PAINTINGS IN THE MONASTERY OF HOSIOS LOUKAS	共	2012年07月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 2nd International Conference 2012, proceedings, pp.342~347	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という3種類の山の類型が抽出された。
9. オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型 -人物との関係に着目して-	共	2012年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(東海), pp.307~308	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画を分析対象とし、山の類型を抽出して、それら類型の意味を明らかにし、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の類型と比較考察した。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」という2種類の山の類型が抽出された。オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画において、コーラ修道院の場合と同様に、山は特別な意味を持つ、現実の世界と神の世界を繋ぐ場所だったと考えられる。
10. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の意味-ドームとの関係に着目して-	共	2013年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(北海道), pp.749~750	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院における山の意味を明らかにすることを目的として、建築空間の断面構成とキリスト教絵画における山との関係の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクス及びパレクリシオンのドームにはイコンが描かれ、その下のペンデンティブやルネットには神の世界と地上の世界の関わりを表現する図像、天使、聖母マリアの象徴である梯子及び契約の箱、そして山が描かれ、さらにその下には聖母マリアの執り成しをもってキリストによる救済を願う図像や献堂者達の墓室という断面構成になっている。コーラ修道院の建築空間においても、山は現実の世界と神の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていたと考えられる。
11. 神戸・阪神地域における精神科病院の立地に関する研究	共	2014年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(近畿), pp.193~194	森愛子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 精神科病院開設当時の治療の場の建築的特徴を明らかにすることを目的として、神戸・阪神地域で主に戦前に開設された6病院を対象とし、開設時期の地図や文献資料をもとに調査した。これらの精神科病院は、市街地からは隔てられた街の外れに位置していたが、あくまでもその街の内側にあったことを考察した。
12. コーラ修道院の内ナルテクスにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集(近畿), pp.799~800	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスにおける壁画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、それらによって形成されている建築空間の意味を明らかにすることを目的として、コーラ修道院の内ナルテクス

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
13. カップアドキア・ウフララ渓谷の岩窟聖堂における壁画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), pp.801~802	<p>の内部合成写真を作成し、壁面装飾による空間構成を分析した。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、南ドームにおける「神としてのキリスト」及び北ドームにおける「人としてのキリスト」の可視化により、「キリストの両性」を表現する建築空間が壁画の配置によって形成されていたと考えられる。</p> <p>木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究、代理発表 カップアドキア・ウフララ渓谷の岩窟聖堂の中からユランル・キリセ、シムビュルル・キリセ、コカル・キリセを対象として、祭室や墓室、開口の有無及び位置に着目し、壁画による空間構成を明らかにすることを目的とし、画像配置図を作成し、壁画の主題及び配置の分析を行った。聖堂西側における墓室の配置や死及び救済に関係する壁画の配置によって、死後の救済への強い祈りが表現されていると考えられる。単なる祈りの場所であるだけでなく、墓室や壁画の構成から“死”を意味する場所でもあったことが見出された。</p>
14. コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.335~336	<p>猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、14世紀の献堂者テオドロス・メトキティスの墓室の配置の意味を明らかにすることを目的とする。コーラ修道院のパレクレシオンにおいて、西側から入って左(北)側は「最後の審判」で天国が描かれた向きである。それに対して右(南)側は「最後の審判」で地獄が描かれた向きである。献堂者テオドロス・メトキティスの墓室は、ドームの中心から外れた位置になるにも関わらず、ナオスへ通じる通路があり、かつ最後の審判に描かれた天国により近い、北壁に配置されたと考えられる。</p>
15. 宮城県気仙沼市唐桑町大沢地区の防災集団移転において確認された地域コミュニティの意義について	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp.281~282	<p>川瀬葉月, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は川瀬が2011年の東日本大震災直後から復興支援の活動を行ってきた気仙沼市唐桑町大沢地区を対象としている。震災から4年が経過し、各地で復興計画が実行に移されていく中、大沢地区では被災当初よりコミュニティ再生への住民の意識やまとまりが高く、気仙沼市において防災集団移転促進事業で最初の大合意を得た。それは明治三陸地震、昭和三陸地震の被害を受けながらも、営々と受け継がれてきた多様なコミュニティの存在が深く関わってきたであろうし、今回の防災集団移転に際しても、そうしたコミュニティの影響が見出し得た。本研究では、津波被災という非日常の状況下において、住民からのヒアリングを主たる方法として調査を実施し、大沢地区の複層的なコミュニティの特徴を明らかにする。</p>
16. 水のみち	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.256~257	<p>衣川桃, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 水は人間や動植物にとっては生命の源であり欠くことのできない存在である。日本人は水との親密な関係を築き続けてきた。建築における人と水との関わりを改めて意識し直すために、日本人がもっている水の文化、すなわち我々の祖先が水に対してどのように接し、どのように考えてきたのか、水の多義的な意味について調査した。神社や寺院などの建築において表現される水は、生命力・浄化力とともに境界性を表している。水は距離感や奥行きによって空間を分離するはたらきをもち、護岸や彼岸といった境界性を生み出している。そこで、神社の構造をもった『日常から非日常への導入』として水をめぐる建築を提案する。</p>
17. 阪神電車鳴尾駅におけるモザイクタイル画のデザイン	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.252~253	<p>中村優花, 中野沙耶, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 兵庫県の都市計画事業である「阪神本線西宮市内連続立体交差事業(鳴尾工区)」により、武庫川女子大学の最寄駅である鳴尾駅(下り駅舎)が高架化された。2015年3月に下りホームが完成し、そのプラットホームに武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級</p>



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
18. 児島・田の口の集落の構造についての研究—由加金毘羅両参りに着目して—	共	2015年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-1, pp.615~616	建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程1年の7名のデザインによる13のモザイクタイル画が設置された。モザイクタイル画の図案制作だけでなく、タイル一つ一つを図案通りに配列し、現場で施工する一段階前の300角シート貼りまでの作業を行った。 伊藤知夏, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は由加金毘羅両参りにより発展した児島・田の口の集落が空間的にどのような構造をもっていたかを明らかにすることを目的として調査を行った。由加山は元々信仰の中心であり、田の口港は金毘羅宮と由加山を繋ぐ軸線上の場所である。児島が島から半島へ変わることで、由加山、そして田の口から由加山に到る参道の重要度が増し、由加金毘羅両参りの流行とともに中継地の港である田の口の集落がその軸線に沿って形成されたのである。
19. カップパドキアの岩窟聖堂における祭室及び窓の位置	共	2015年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp.337~338	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究 カップパドキアの岩窟聖堂を対象に文献調査を行い、祭室が位置する方角や窓の有無に着目し、カップパドキアの地域ごとの岩窟聖堂の空間の特徴を明らかにすることを目的とした。今回の文献調査によって確認できたカップパドキアの岩窟聖堂では、祭室は一般的なビザンティン聖堂と同様に東側に位置することが分かった。本調査では窓を有する岩窟聖堂は多く見られなかったが、Ihlara Valleyの西岸に多数集まっていることが分かった。また、それらの窓は東側に位置する祭室に掘られる傾向が見られた。他地域の窓を有する岩窟聖堂の窓の位置と祭室の方位を確認するとTriconchを除く聖堂4カ所と同様の傾向が見られ、本調査では、Ihlara Valleyだけではなく、カップパドキア各地でこの傾向を確認することができた。このことから、東からの光に重要な意味があったと考えられる。
20. カップパドキア・ウフララ渓谷の岩窟聖堂における空間構成 — Ylanl Kilise、Kokar Kilise、Pürenli Seki Kilise を対象として —	共	2016年6月25日	日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究 ウフララ・グループのKokar Kilise、Ylanl Kilise、Pürenli Seki Kiliseを対象に室や墓の配置、壁画の主題及び配置を分析し、空間構成について考察を行った。対象とした岩窟聖堂は、聖堂と墓室を中心とし、壁画の主題及び配置による“死”、そして祈りを捧げる信者の魂の“救済”を意味する空間を構成していることが明らかになった。ここでは特に墓室が重要であり、それがあるからこそ聖堂に“死”や“救済”を意味する壁画が多く描かれ、ウフララ・グループ独自の神聖な宗教的空間として意味づけられている。
21. コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成 その2	共	2016年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp.721~722	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院聖堂のパレクレシオンにおけるアクトノメトリック図を作成し、キリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。これによりドームにおける「聖母マリアによる執成し」とその成就としてのアプシスにおける「キリストによる救済」を希求する、献堂者テオドロス・メトキティスの願いを表現する建築的空間が絵画及び墓室の配置によって形成されたことを考察した。
22. 旧甲子園ホテルの酒場のテーブルの復元	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集G-1, pp.396~397	今川泰江, 伊藤知夏, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 授業における指導 旧甲子園ホテルの酒場の椅子に引き続き、テーブルについても復元を試みた。酒場のテーブルは、椅子とセットで設えられており、旧甲子園ホテルの内部空間を研究する上で重要と考える。
23. カップパドキア・ウフララ渓谷の岩窟聖堂における空間構成	共	2016年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp.719~720	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究 本研究はウフララ渓谷の岩窟聖堂における空間構成を明らかにすることを目的とし、ウフララ・グループに属する複数の聖堂を含む8つの聖堂を対象に室や墓の配置、壁画の主題及び配置について分析・考察を行った。本研究で対象とした岩窟聖堂は、聖堂と墓室を中心とし、壁画の主題及び配置によって“死”、そして祈りを捧げる信

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
24. 未来へ茶の湯をつなぐ立礼席	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 424~425	者の魂の“救済”を意味する空間を構成していることが明らかになった。ここでは特に墓室が重要であり、それがあからこそ聖堂に“死”や“救済”を意味する壁画が多く描かれ、ウフララ渓谷独自の神聖な宗教的空間として意味づけられている。 三谷有加, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 小間が利休の求めた茶室の完成形とするなら、立礼席とは何をもって理想形とするか探るため、立礼席に必要な要素を茶座敷から抽出、分類することで、茶座敷から立礼席へ展開を行い、設計へと反映した。茶の湯の発祥の地である建仁寺から八坂通を挟んだ向かいの敷地を計画地とし、茶の湯の要素である「露地」「床の間」「躰口」などの解釈を建築化することで、新たな茶の湯の空間を提案した。
25. 阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱におけるモザイクタイル画の制作方法的提案	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 402~403	高田悠希, 今治こみ加, 尾崎綾, 谷なつき, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱を題材に、まちの歴史的風景として「鳴尾の一本松」をモザイクタイル画で描く。本稿ではモザイクタイルでの表現方法や柱のディテールについて提案した。
26. 阪神電車鳴尾駅の歴史的風景としての「鳴尾の一本松」の絵の提案	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 400~401	今治こみ加, 高田悠希, 尾崎綾, 谷なつき, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 阪神鳴尾駅自由通路内中央の柱(高さ4700mm、一辺1100mm)に武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程1年による一本松のモザイクタイル画を提案した。この柱は駅改札口前の中央、最も人通りの多い場所にある。街のシンボルとするのにふさわしい場所と考え、この柱に地域の歴史的風景である「鳴尾の一本松」の絵を施すことを検討している。
27. 旧甲子園ホテルの酒場の椅子の復元	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 394~395	伊藤知夏, 今川泰江, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 授業における指導 甲子園ホテルは、フランク・ロイド・ライトの愛弟子である遠藤新の設計により1930(昭和5)年に竣工した。本プロジェクトでは、甲子園ホテル時代の写真を基にそこで使用されていた家具の復元を行い、当時の室内空間の再現を試みた。そのデザインの着想は、甲子園ホテルの建物のデザインを意識し、その特徴を反映させていると推察する。今後、甲子園ホテルの装飾について研究する上でも重要と考え、酒場で用いられていた椅子を復元した。
28. 変容するまど	共	2016年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 260~261	堀内環美, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 日本人の自然観について整理した上で、日本的な空間における「まど」の意味についてまとめた。これをふまえて、「まど」の多層性を建築計画(美術館)のレベルと都市計画(参道と広場)のレベルそれぞれに応用した自由な美的空間を提案した。敷地は四天王寺西参道である逢坂とその周辺とし、歩行者専用空間を創出するためアンダーパスを計画し、谷町筋などの車道は現状の地盤面より4.5m低く設定した。そこにつながる広場と美術館、立体交差する歩道を通過するとき、「まど」の重なりが内と外が連続した自由な美的空間の中でゆるやかに風景が変化する。
29. オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 - ルカスの墓と絵画との関係に着目して -	単	2017年8月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 879~880	オシオス・ルカス修道院聖堂におけるルカスの墓の配置について検討し、その空間構成の特徴をルカスの墓と絵画に着目して考察した。聖バルバラ聖堂とエウクティリオンとの二つの聖堂が離れて建てていた10世紀後半には、ルカスの墓を中心として二聖堂の空間が構成されていたが、11世紀前半にかけてパナギア聖堂とカトリコンが建設され、建築的にはルカスの墓がある空間は二聖堂に付属する空間に変化したと考えられる。しかし二聖堂間の東西軸線に沿ってルカスの墓とそれに関係する絵画が配置されることにより、ナルテクスから北西礼拝室を経てルカスの墓へ至る連続する空間が意味づけられ、その墓の持つ重要性を示しているのである。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
30. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その3 上りホーム床モザイクタイル画のデザイン	共	2017年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 414~416	ボズクルツベイザナル, 吉野有里恵, 山口彩, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオおよび同大学院 建築学専攻 修士課程1・2年生の9名は、阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 上りホーム床のモザイクタイル画10点を制作した(2016年度後期に実施)。モザイクタイル画のテーマ決定から、図案検討、現場で施工する一段階前のシート貼りまでの作業について報告する。
31. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その2 ブランクシートの表面温度計測および構造実験	共	2017年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 412~413	山口彩, 吉野有里恵, ボズクルツベイザナル, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 ブランクシートをシェルの構造体として用いるために行った表面温度計測試験や構造実験の概要、現場での施工について報告する。下地材が不要なブランクシートによるプラットホーム上屋では、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える。今回の設計を通して、建築材料、特に仕上材や構造材としては一般的でないブランクシートの有効性を示し得た。阪神電車鳴尾駅におけるブランクシートを構造体として使用し、最低限の部材によって壁と天井が一体の空間を構成する手法は、駅舎など記号性が求められる建築の設計に有効であろう。
32. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その1	共	2017年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 410~411	吉野有里恵, 山口彩, ボズクルツベイザナル, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计協力、授業における指導 武庫川女子大学の玄関口である阪神電車鳴尾駅のプロジェクトにおいて、詳細図やCGパース、模型を作成し、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討し、外観やホーム、コンコースなどのデザインを提案した。打合せでは、作成した図面や模型を用いて学生自らがプレゼンテーションを行っている。2015年3月に阪神電車鳴尾駅下りホーム、2017年3月に上りホームが完成した。本稿ではブランクシートを用いたことにより最低限の部材によって構成された駅舎空間の設計について報告する。
33. 尼崎の工場敷地内 庭園計画 その2	共	2017年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 156~157	奥田まり, 磯上奈穂美, 平嶋奈弥, 岡崎甚幸, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 朝日エティック株式会社大阪工場敷地内庭園の設計、授業における指導 本計画は朝日エティック株式会社の大阪工場敷地内に庭園を設計するものである。植栽計画ならびに照明計画の概要、庭園灯の設計について述べる。本計画では、庭園が四季折々の表情を見せるよう植物の選定、配置を行った(図1、図6)。また、オオシマザクラ・モミジ・アラカシといった中・高木をシンボルツリーとして配置し、その周りに歩行空間や人が集い、憩うための空間を計画した。季節毎に表情を変える植物の見どころを存分に際立たせつつ、庭園に適度な明るさを与えるような照明計画を行った。
34. 尼崎の工場敷地内 庭園計画 その1	共	2017年08月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 154~155	磯上奈穂美, 奥田まり, 平嶋奈弥, 岡崎甚幸, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 朝日エティック株式会社大阪工場敷地内庭園の設計、授業における指導 兵庫県尼崎市に工場を構える、朝日エティック株式会社の工場敷地内の一角に、従業員が安らげる庭園を計画する。対象敷地は沿岸部の埋立地で、海風がきつく、時より突風が吹くなど植物にとって気候条件の厳しい地域である。設計に先立って、クライアントが持っている天龍寺のモミジの苗木を植えたい、従業員と花見をしたいなどの要望があり、さらにこの敷地の一部に2台分の駐車場も含めることが設計条件であった。それらを踏まえて、本設計では日本の回遊式庭園となるようにデザインを行った。
35. 京都西山の宗教的意味について	共	2017年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-	長谷川葵, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
36. 現代の日本における「廃墟建築」の意義 磯崎新の見解を踏まえて	共	2017年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 389~390	数多くの古墳も残る西山の一角は、古代以前から人々の生活の拠点として栄え、また長岡京が造営され、多くの寺院も建立されてきた。その建設年代も古代から平安時代、さらにそれ以降まで様々であるが、これらの寺院について、日本の宗教の歴史を辿りながら概観し、それぞれの寺院が何故、西山の地域に建立されたのかを分析し、そこに暮らす人々にとっての西山という地域の宗教的意味について考察する。 立野貴子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 人々を魅了する「廃墟建築」だが、その存在意義について論じた研究は少ない。本研究は日本を代表する建築家の一人である磯崎新の「廃墟論」(1988)における彼の見解を通して、現代日本における「廃墟建築」の意義について明らかにすることを目的とする。「廃墟建築」の意義を理解することにより、次世代の建築と「廃墟建築」との共存へ向けた知見が得られると考える。
37. 古瑜伽・妙見宮についての一考察 由加山門前町の発生から衰退の移り変わりについての研究	共	2017年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-1, pp. 1189~1190	伊藤知夏, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 現在の敷地に移る前の古瑜伽の場所や今も残る妙見宮の意味について、周辺地域や参道の変遷、とくに熊野神社との関係に着目して考察を行い、そうした参道全体を含めた由加山とその門前町の空間構成に関する研究における意味を明らかにしている。
38. 出産を取り巻く環境の変遷について	共	2017年08月	日本建築学会大会 学術講演梗概集E-1, pp. 55~56	松居京香, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 少子高齢化が急速に進む現在の日本において、出産や育児に不安を抱えている妊産婦に寄り添うことが重要といえるが、産科医の負担増大や医療訴訟の増加などにより、産科医不足を招き、効率重視の出産となっている。このような出産を取り巻く今日の状況に対して建築的な提案を行う上で、あらためて日本における出産の歴史をたどり、出産を巡る歴史的習俗を振りかえることを通して、今後の出産環境を整備する上での多くの示唆が得られるであろうと考えている。
39. 継承する建築 — 「学」から「社」へ —	共	2018年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 188~189	内藤杏美, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 建築とは建物だけでなくその周りの空間も含めた場の創造である。そして、過去から未来へと風景を紡ぐものである。古代まで土地の歴史を遡り、その土地の「潜在する風景」を読み解き、その風景を顕在化させ、次世代に継承する建築を提案する。 古代より島根半島の山裾であり、出雲大社と同様に同社・同名社(同じ名前をもつ神社)のまとまった分布がみられた地域である伊努郷は、出雲において重要な地域であるにもかかわらずその歴史性は薄れてしまっている。そこで、「道の建築化」と「空間の神聖化」によってこの伊努郷に潜在する歴史的風景の顕在化をはかる。
40. オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 その2	単	2018年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 837~838	オシオス・ルカス修道院聖堂における空間構成の特徴をルカスの墓と南出入口に着目して考察した。10世紀後半には、聖バルバラ聖堂とエウクティリオンが離れて建てられ、多くの巡礼者は敷地東側にある修道院出入口からアプローチし、二つの聖堂ともそれぞれの南出入口から入って正面、奥の北腕にあるルカスの墓、すなわちエウクティリオン1階ではルカスの遺体、地下クリュプタでは石棺を礼拝したのであろう。その後11世紀前半にかけてパナギア聖堂とカトリコンが建設(増築)され、カトリコンはモザイク、フレスコによって装飾された。オシオス・ルカス修道院聖堂では、当初南出入口から北のルカスの墓へ向かってつくられた空間の上に、絵画の配置によって意味付けられた西から東へ向かう空間が重なり、ルカスの墓を中心とする神聖な建築的空間が形成されたのである。
41. キセカエハウスのプロジェクトを通じた環境教育	共	2018年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集D-2, pp. 333~336	宇野朋子, 森本順子, 岡崎甚幸, 杉浦修史, 猪股圭佑, 山口彩 キセカエハウスの設計、授業における指導 キセカエハウスのプロジェクトでは、企画の段階で、建物の仕様、工期や施工性と合わせて、熱光などの環境性能を確認した。企画・設計の段階で各学生が担当した項目に関しては知識が定着してい

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
42. 朝日エティック株式会社 大阪工場 庭園	共	2018年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 48～49	た。意匠デザインと環境評価を繰り返してフィードバックさせること、さらに、実際に建物に滞在しながらの実証・測定によって、環境設備に対する意識が高まり、理解が深まったといえる。エネマネハウスのプロジェクトへの参加が、学生の環境デザインへの意識向上につながったと考えられる。 山口彩, 岡崎甚幸, 森本順子, 猪股圭佑, 朝日エティック株式会社 大阪工場 庭園の設計 武庫川女子大学大学院建築学専攻では、2016年5月に朝日エティック株式会社より同社大阪工場敷地内に従業員のための庭園の計画を依頼され、2016～2017年にかけて「建築設計実務Ⅰ・Ⅱ」の演習課題として取り上げ、発注者や施工者と産学連携で取り組んだ。2017年度は、修士課程1・2年の18名の学生が庭園の詳細設計を行い、造園会社の協力を得て造成工事および植樹を体験した。
43. 出雲平野における地域空間構成についての一考察 一地形の変遷と神社の分布を手掛かりとして一	共	2018年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 279～280	内藤杏美, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 地形の変遷と神社の分布を手掛かりとして出雲平野における地域空間構成の特徴を明らかにすることを試みた。その結果、出雲平野において、島根半島の鼻高山山系南麓が神の坐す土地として中核的性格を持つ地域であることが明らかとなった。また、出雲平野における古代の道は地形の変遷によって山地から山裾、そして平野部へ移行し、その道の変遷に伴って古代の神社は自然物や祠から常設の建築物である社殿へと姿を変え、鎮座地は山地から山裾へ移行していったと考えられる。現在は出雲平野南部がこの地域の中心地であるが、鼻高山山系南麓が元は島であり古代出雲における重要な土地であったことが出雲の歴史的風景を形づくっているといえる。
44. 大阪町人茶道とその空間に関する研究	共	2018年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 281～282	上間梨乃, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 大阪の町人茶道について、茶の湯の「地域性」や「精神性」に着目しながら大阪町人茶道のあり方について考察した。「わび茶」は高い精神性を特徴とする。しかしそれは大阪町人の間に広がる過程で、大阪の人々の合理的発想や、経済の中心という大阪の地域性によって、それまでの「非日常」の茶の湯から、「日常」の茶の湯へと、それを行う空間と共に変化したことが明らかになった。
45. ルート540計画 未成線・五新鉄道の再誇	共	2018年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 320～321	田村早帆, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 五條と和歌山県新宮とをつなぐ五新鉄道は、奥吉野地方の木材資源開発、さらには軍事上の目的から、明治末期にはその構想がはじまり、昭和14年に着工したものの、太平洋戦争による状況悪化を受けてまもなく中断され、わずかに五條駅から吉野川をまたぐ橋梁までの一部が高架アーチ橋として残っているのみで、そのヒューマンスケールを超えたコンクリート造むき出しの高架アーチ橋が、新町通りを横断し、景観的にも市街地を分断してしまっている。この未成線の遺構を、町おこしの起爆剤として再生するために、地域の再開発の拠点となる施設を計画することを目的としている。
46. 障屏画が描かれた室内意匠の変遷 -住宅建築におけるやまと絵に着目して-	共	2018年09月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 325～326	堀内環美, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 日本の住宅建築における絵画が描かれた室内意匠は、もともとが主として移動と取り替えが可能なものであり、それらが様々な仕切りや建具として発展、展開した。それらに描かれた障屏画は鑑賞用の絵画というよりも、歌に込めた詩情や自然への叙情を表現するための絵画であり、生活を彩る要素として建築と結びついていたという点において、庭や周辺自然环境と同じように捉えられていたと考えられる。
47. 環濠文化館	共	2018年09月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集G-1, pp. 274～275	仲谷暁, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 環濠集落を取り巻く藪と濠は、人々にとって「山」と「川」のようなものであった。「山・川-村落」という生態的關係が日本の伝統的な生活の特徴の一つの風景を生み出していた。現在、奈良盆地に見られる環濠集落は、村を守るために掘られたものの名残である。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
48. キセカエハウス 伝統的住環境技術を用いた対話のしつらえ	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.72~73	<p>環濠は防衛的使命を終えた後、あるものは残って田に水を引くために利用され、あるものは埋められながらもその痕跡を区割に残し、あるものはその存在を完全に消し去った。環濠集落は近年の都市化の波にのまれ、しだいに、人々の記憶の中から忘れられつつある。そこで、様々な時代を通して人々と関わり続けてきた「濠」と「藪」を新たな建築的要素として境界をつくり、環濠と地域、環濠と人々を繋ぐ空間を提案する。</p> <p>川崎祐華, 井ノ口果穂, 帯辺菜穂, 田中佐弥, 堀内環美, 田村早帆, 前田真季, 野崎奈緒美, 佐々木みなみ, 岡崎甚幸, 杉浦修史, 宇澤善一郎, 森本順子, 宇野朋子, 猪股圭佑, 山口彩</p> <p>キセカエハウスの設計、授業における指導</p> <p>武庫川女子大学大学院建築学専攻の修士課程1・2年の学生19名が提案した「キセカエハウス」は、住み心地がよく、家族や地域と積極的な交流を生むZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)である。本提案では、「住まうこと」とは、住まい手自らが自然環境やライフスタイル、地域との繋がりに応じて住宅をつくりかえてゆくことと考えた。そしてそれらを、伝統的住環境技術を用いた「変化するしつらえ」によって実現した。</p>
49. つなぐ建築一大阪倶楽部ハウスー	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.282~283	<p>上間梨乃, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>現在、芸術や文化は一部のそれを職業とする人々によって継承され、市井の人々は彼らの活動を鑑賞するという受動的な態度が目立つ。しかも伝統芸能はその鑑賞者さえ減少し、存続が危ぶまれるものもある。「文化」は人々が年代や職業、性別、国籍さえ超えてつながることができる、人生をゆたかにしてくれるものである。一般の人々が日常のかたわら、集い、伝統芸能を含むあらゆる活動を行うことができる、「文化活動拠点」が必要と考える。そしてこの拠点を中心に「町人文化都市大阪」の復活を目指し、歴史的に大阪文化の発信地であった道頓堀川沿いに、「人と人」をつなぎ、「文化の過去と現在と未来」をつなぎ、「大阪のまちのあちらとこちら」をつなぐ建築として、「大阪倶楽部ハウス」を提案する。</p>
50. キセカエハウス 住み継ぎを可能にするしつらえ	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.74~75	<p>大原こころ, 池澤萌子, 上原陽, 江口知里, 神本希美, 永田瑞季, 野村侑子, 吉住春香, 岡崎甚幸, 杉浦修史, 宇澤善一郎, 森本順子, 宇野朋子, 猪股圭佑, 山口彩</p> <p>キセカエハウスの設計、授業における指導</p> <p>キセカエハウスでは、「住まうこと」とは住まい手自らが自然環境やライフサイクル、地域との繋がりに応じて住宅を作り変えてゆくことと考え、提案を行った。そして伝統的住環境技術を用いた「変化するしつらえ」によってこれらの提案を実現した。</p> <p>キセカエハウスに採用したさまざまなアイテムは学生がデザインし、建具や家具など、一部は技術者の指導を仰ぎながら、実際に製作した。そのほか、VPP 実証や省エネルギーのための創産連携について勉強会や見学会を行うなど、企業との連携があり、多くの知識を得ることができた。</p>
51. 観月台	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.56~57	<p>中川祐華, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>かつて巨椋池が存在し豊富な水資源に恵まれた伏見区に位置する「指月の丘」には平安時代以前から多くの人物が風雅を求め、住居を構えてきた歴史がある。今は集合住宅が立ち並び混沌とした景観の見られるこの土地であるが、「観月台」を計画することでかつての風流人たちが月見を楽しんだ歴史をよみがえらせることを試みた。</p>
52. A STUDY ON TEA CEREMONY FOR OSAKA MERCHANTS AND THEIR SPACES OF TEA PARTY	共	2019年06月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 5th International Conference 2019, proceedings,	<p>上間梨乃, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>大阪の町人茶道について、茶の湯の「地域性」や「精神性」に着目しながら大阪町人茶道のあり方について考察した。「わび茶」は高い精神性を特徴とする。しかしそれは大阪町人の間に広がる過程で、大阪の人々の合理的発想や、経済の中心という大阪の地域性によって、それまでの「非日常」の茶の湯から、「日常」の茶の湯へ</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
53. 日想楼 人とまちを繋ぐ観光拠点の提案	共	2019年9月	pp. 85～87 日本建築学会大会 学術講演梗概集G-1, pp. 426～427	と、それを行う空間と共に変化したことが明らかになった。 山下奈津, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 夕日に向かい極楽浄土に想いを馳せる「日想楼」の地として古くから信仰を集めた四天王寺界隈では、近年外国人観光客が増加し続けている。四天王寺界隈に訪れる観光客を受け入れ、四天王寺界隈の歴史や文化を発信する観光拠点を提案する。
54. 八尾に灯る楼櫓	共	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集G-1, pp. 160～161	小林志帆, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 戦国時代、各地で民衆が自分たちの生活を守り発展させる中で、浄土真宗の寺院と門徒である民衆が宗教的な意識で一体となり、地方の守護大名や領主から独立や特権を認めさせ、信仰と一向一揆により自治的な町づくりがなされた。寺院の周囲に町屋が建てられ、町屋の外側は濠で囲まれて、町全体を広い意味での寺院の境内であるとみなして寺内町と呼ばれていた。 現在、寺内町として栄えていた町は寺院や環濠が残っている場所も多いが、かつてのような活気がない。そこで、かつては周辺地域の中心となっていた八尾寺内町を設計敷地として選定し、現状の問題を読み解き、活気を取り戻すための建築を提案する。
55. 日本における山の意味についての一考察—荒神岳を例として—	共	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 551～552	杉本遥, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は古来の日本人にとっての山とはどのような存在だったのか、日本における山の意味を明らかにすることを目的として荒神岳を例として日本の伝統的な山の意味を示した。日本人にとっての山は神聖な場、憧れの地、美しい風景としての意味が重なり合った自然であり、荒神岳にはそれぞれの特徴が現在にも残っている。荒神岳は高野山の奥社としての神聖な場でありながら、かつて山麓の村は山里としてにぎわい、やがてこの地域の美しい風景を構成する要素となった、重層的な意味を持つ日本の伝統的な山なのである。
56. シャトル大聖堂におけるステンドグラスの平面配置について	共	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 265～266	安藤恵菜, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究では、1145年から建造が始まり、五度に渡って再建され本来の姿に近づけるべく修復されたシャトル大聖堂のステンドグラスの配置について明らかにすることを目的とする。今回はシャトル大聖堂のステンドグラスの平面の配置と断面の配置を調べ、その配置にどのような意味付けがなされているのかについて考察する。シャトル大聖堂におけるステンドグラスの図像は、建築の部位ごとにそれぞれ関係する主題、人物がまとめて配置されている。ゴシック聖堂はその合理的な構造形式によって実現される光に満ちた統一的内部空間として名高いが、シャトル大聖堂ではそれが図像の配置によってさらに神聖な宗教的空間として深く意味づけられているのである。
57. オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 その3 - キリスト教絵画の主題及び配置-	単	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集F-2, pp. 881～882	オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画の主題及び配置を分析し、建築と絵画の統合的理解を試みた。南斜面に向けて眺望のよい敷地に建つオシオス・ルカス修道院聖堂では、当初南出入口から北のルカスの墓へ向かってつくられた空間の上に、キリスト教聖堂としての西から東へ向かう空間が重なって構成されている。個々の空間として完結するように絵画が配置されながら、聖堂全体では墓の近くにルカスの図像と、それに関係づけられる位置に聖母マリアやキリストが描かれることにより、ルカスの墓を中心として意味付けられた、3次元のビザンティンの宗教的空間が形成されたのである。
58. 山界への門 一山の神と出会うやすらぎの場—	共	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集G-1, pp. 284～285	杉本遥, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 日本人にとって山とは歴史的に重要なものであった。人々は山と密接に関わって生活してきた。しかし現在の日本人の中で山の存在は薄くなってきている。今回は、古来より日本人の拠り所であった山への心を取り戻す建築を提案する。
59. ダリの絵画に見る建	共	2019年9月	日本建築学会大会	西村美咲, 田崎祐生, 猪股圭佑

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
築的要素についての一考察			学術講演梗概集F-2, pp.533~534	ゼミにおける研究指導 本稿では、ダリの絵画の中に描かれた構成要素について時代区分や距離景に着目して分析することで、その特徴を明らかにすることを目的とする。ダリの“シュルレアリスム絵画”においては「人間」だけでなく「建物」の表現に注目すべきであり、ダリが表現しようとしたものを解釈する上で絵画に描かれた建築的要素の理解が重要である。
60. ネア・モニ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 その1 - キリスト教絵画の主題及び配置-	単	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.351~352	ネア・モニ修道院聖堂におけるキリスト教絵画の主題及び配置を分析し、建築と絵画の統合的理解を試みた。カトリコンの中心であるナオスとその奥のペーマ、前室である内ナルテクスにおいて、個々の空間として完結するように絵画が配置されながら、同時に見ることはないが互に関連する複数の絵画によって、聖堂全体で「昇天」と「再臨」を表現する、3次元のビザンティンの宗教的空間が形成されている。
61. 山の風景の創造 -唐古・鍵地区に建つ歴史博物館-	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集G-1, pp.182~183	森田有季, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 奈良県の大和盆地内に位置する唐古・鍵地区は弥生時代最大級の環濠集落を形成し、その後も四周から流れる河川によって水に恵まれた土地であった。さらに平城京や藤原京との位置関係からも、歴史的に重要な地区である。ここでは、古代からの自然がそのままの姿で美しい風景となったのではなく、自然に人の手が加えられることで美しい風景が創造されてきた場所であると考え、唐古・鍵地区の歴史や土地性を知ることが出来る博物館を設計する。すなわち自然に新たな人の手を加えることによって現代における新しい風景の創造を試みる。
62. 降り龍 ~天橋立芸術センター~	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集G-1, pp.158~159	大瀬戸綾乃, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 人が1つの物事を体得するのに1万時間かかるといわれている。人生は時間と意識をどこに向けるか、何に時間をかけるか、何に目を向けるかが人生そのものを形作る。昨今の日本における集団生活の中で、己は何に興味があり、何をみて、何を想像するかという個人個人の「考える」という時間や場所が少なくなっているのではないだろうか。そういった、ひとりひとりが「考える」きっかけを生む建築を提案する。
63. ハレの日の船出 一縁を結ぶ建築一	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集G-1, pp.76~77	飯塚真希子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 数々の画家が絵に留めてきた、美しい三上山と比叡山に敬意を払い、これらを結んだ軸上に結婚式場をもつ宿泊施設を計画する。200年以上前から描かれてきた風景と繋がる場所で、新郎新婦と二人の船出を祝うゲストが集まる「人と人の縁を結ぶ」建築を生み出すことで近江の風景を未来へと繋ぐ。
64. 神域へいざなう空間 -住吉大社へとつづく道-	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集G-1, pp.20~21	湊綾菜, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 かつて、住吉大社のすぐ西側には海があった。人々は海ぎわにある高燈籠を目指して舟で住吉浦に入り、松並木の参道「汐掛道」を通り、住吉大社へと訪れた。現在、海は埋め立てられたが、高燈籠はかつての姿のまま200m東に再建され、その高燈籠から公園を通り住吉大社まで参道「汐掛道」が残されている。しかしながら、参道を分断するように南海本線の高架があり、高燈籠から続く参道の風景が無機質な高架によって損なわれている。そこで、かつての海から続く参道の軸線を強調し、生活の中心である高架をそのままに、住吉大社へといざなう建築と参道の風景を提案する。
65. ガレリア 現代建築における鉄骨造デザインの追求	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集G-1, pp.6~7	野中遙子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 現代の鉄骨造建築において、構造そのものに美的価値を与えながら、合理的な美しさを追求することを目指して設計を行った。合理的な美しさを追い求める第一歩として、鉄骨造の各部材やその接合部のディテールのデザインを追求した。規格化されたL型鋼やH型鋼の組み合わせによって柱や梁を構成し、それらに陰影を与えること



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
66. 近代大阪における茶の湯の場に関する研究 ―春翠と逸翁に着目して―	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 689～690	<p>で、美と強の関係を強め、様々な角度から集まる部材同士の各接合部を造形的に表現した。</p> <p>上間梨乃, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>大阪の近代数寄者達が営んだ茶の湯の場について明らかにすることを目的とし、代表的数寄者として春翠と逸翁を取り上げ、近代大阪における茶の湯の場を多面的に分析した。近代大阪における茶の湯の場は、美術鑑賞の場という近代数寄者的な当時の気風も備えながら、動座や前茶などの地域的な特徴もみとめられた。特に春翠が活躍した大正期には小間よりも広間でのもてなしを尊重する江戸時代の旦那衆的な茶の湯の場の特徴がみられ、逸翁が活躍する昭和初期になると点前の省略や懐石の簡略化など近代合理主義に基づいた特徴が見受けられるようになる。近代大阪では、東京の近代数寄者や京都の家元らとの交流がありながらもなお、以上のように独自の茶の湯の場が営まれていたことが明らかとなった。</p>
67. 近江八景に描かれた風景 ―東海道と琵琶湖との関係に着目して―	共	2020年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 639～640	<p>飯塚真希子, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>「近江八景」の視点場や、描かれた地域、山について調べ、当時の近江八景の風景がどのように描かれたかの分析及び考察を行った。近江八景を含む近江の風景を一枚で表している絵については、主として描かれた地域は「湖西」であり、「湖西の山」が描かれた。「近江八景を八枚で描いている絵」については、「湖西」のみを描いた絵が多かった。これらのことから、近江の風景を描いた画家にとって、「湖西」および「湖西の山」が重要であったことが分かった。</p>
68. はなむけ	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築デザイン, pp. 200～201	<p>岸真梨奈, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>ため池景観によって独特な農村風景をもついなみ野台地では、用水の発達や農業人口の減少により近年、多くのため池が田畑や住宅用地、公共用地として埋め立てられている。ため池の埋め立ては、いなみ野台地特有のため池景観が失われるだけでなく、ため池が古くから人々の生活や集落の形成と密接に関係してきたという記憶さえも失われることにつながる。また、ため池へと水を運ぶこの地域特有の「流」や多くのため池の源流である雌岡山という、現在のいなみ野台地の風景を形作る重要な要素さえも忘れ去られることになるだろう。昔から水の乏しかったいなみ野台地の生活を支えるために設けられた無数のため池やそれらをつなぐ「流」、この恩恵を受けて拓かれてきた農地や農村集落、いなみ野台地を潤し続けた雌岡山など、いなみ野台地において風景を形作ってきた重要な要素を、人々の記憶の中で継承するための建築を提案する。</p>
69. いなみ野台地における地域空間構成に関する研究 ―兵庫県加古郡稲美町を中心として―	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp. 463～464	<p>岸真梨奈, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>本研究では、兵庫県加古郡稲美町を中心としていなみ野台地における地域空間構成の特徴を明らかにすることを試みた。いなみ野台地では、六甲変動の影響によって台地を北西方向へと流れる水に沿うように人々の生活空間が形成された。水の乏しかったいなみ野台地において、雌岡山から流れ落ちる水が川やため池、そして「流」として人々の生活や集落の形成と密接に関係していたことが明らかとなった。現在では、疎水の建設や用水の発達により、かつていなみ野台地を流れていた多くの「流」を見ることができなくなっているが、地上では見えない「流」と、いなみ野台地の東の端にあってその大部分を潤してきた雌岡山が、いなみ野台地の風景を形作っているのである。</p>
70. 近世における屏風についての一考察 ―浮世絵に描かれた屏風を見る―	共	2021年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp. 415～416	<p>山岡亜実, 田崎祐生, 猪股圭佑</p> <p>ゼミにおける研究指導</p> <p>本研究では近世の庶民の屏風について、浮世絵を手掛かりに考察した。近世において、屏風が庶民の生活に普及し、日常的に利用されていたことが明らかになった。屏風は、庶民の生活の場を細やかに分節しながら、ときにはそこを装飾された華やかな場に変えることで</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
71. ネア・モニ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 その2 - 十二大祭の絵画の配置-	単	2021年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp.561~562	きる、豊かな空間を構成する上で重要な要素であったことを見届けた。本稿では、近世に焦点を当てて調査したが、庶民による屏風の利用は明治以降も続いていることが明らかであり、その研究が今後の課題として重要である。 本稿ではネア・モニ修道院聖堂におけるキリスト教絵画の主題及び配置を分析し、建築と絵画の統合的理解を試みた。ネア・モニ修道院聖堂では、「三段階理論」「円環・相称性・中軸」の原理による装飾プログラムに従って、ナオス及び内ナルテクスの十二大祭を中心として絵画が配置されている。特に「昇天」と「再臨」が個別の絵画によって、さらに、別々の空間に描かれた複数の絵画によっても表現されている。ナオスでは、信者に近い位置への十二大祭の絵画の配置によって、皇帝の栄光がキリストの物語に重ねられ、内ナルテクスでは、聖母マリアによる帝国の「守護」が表現されることで、3次元のビザンティンの宗教的空間が構成された。ナオスの壁からドームへの移行部における意匠的、構造的に合理性のある接合部の納まりを犠牲にしながらも、宮廷典礼において皇帝の栄光を称えるための神聖な建築的空間が形成されたのである。
72. 瞑シテ、デアウ - 本来の自分を見つめ、受け入れる空間-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp.202~203	橙麻実, 松下聡, 宇野朋子, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 祈りの習慣は心の病にも関係すると考えられ、ここでは心の治療を行う、心に働きかける空間の設計を行う。この建築では目に見える治療を行う診療所と、目に見えない心の治療を行う非日常の空間を一つの建物に配置し心と体の両方に健康を促進する空間を設計する。宗教徒が行う祈りの儀式と同様に、非日常の世界の中に自分を見つめることができる、本来の自分を知り、受け入れる場を創造する。
73. 景観建築スタジオ東館 - 武庫川女子大学景観建築学科新校舎 その1-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp.16~17	山口彩, 岡崎甚幸, 鳥巢茂樹, 猪股圭佑, 森本順子, 田中佑奈, 船戸理磨子 景観建築スタジオ東館の設計、授業における指導 2020年4月、武庫川女子大学建築学専攻と建築学科建築学研究科に、景観建築学専攻と景観建築学科を新たに加え、建築学研究科と建築学部を開設した。今回は建築学部の教員が運営する学内に設置されている一級建築士事務所「武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ」が設計・監理を行い、「景観建築スタジオ東館」を景観系の新学舎の一つとして旧甲子園ホテルの傍らに新設した。建築学研究科の授業には1級建築士の実務経験として認定されている設計実務の演習科目があり、大学院生はこれの中で設計や現場管理、また周囲の庭園の全体計画、石組み、植栽計画などに参加した。
74. 景観建築スタジオ東館 その2 - 武庫川女子大学景観建築学科新校舎 その2-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp.18~19	船戸理磨子, 岡崎甚幸, 鳥巢茂樹, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩, 田中佑奈 景観建築スタジオ東館の設計、授業における指導 本稿では、「東館」の内部空間や庭園、室内装飾や家具について報告した。建物の前には作業や団欒ができるテラス、その向こうに碎石を敷いた。碎石を海に見立て、海の向こうに島並が見える風景を造り、その中に石橋や車石を据え、滝石組みを設けた。学生たちはここで植物の知識や伝統的な造園技術を修得する。建築学部では、校舎だけではなく、建物の周りの庭などを含め、キャンパスすべてが「生きた教科書」となる。
75. 景観建築スタジオ西館 - 武庫川女子大学景観建築学科新校舎 その3-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp.20~21	田中佑奈, 岡崎甚幸, 鳥巢茂樹, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩, 船戸理磨子 景観建築スタジオ西館の設計、授業における指導 本稿では、「西館」の設計プロジェクトについて報告した。「西館」は、甲子園会館と樹林で遮られたキャンパスの西端、既存の建築スタジオと向かい合うところに配置している。建築スタジオのプレキャストコンクリートによる軽やかさや透明感を生かしたデザインを踏襲しつつ、プレキャストコンクリートの新たな可能性を追求した。建築学研究科の大学院生は、設計実務の演習科目の中で「西館」の設計や現場管理、周囲の石垣や植栽計画などに参加した。
76. 日常生活に田園風景	共	2022年9月	日本建築学会大会	勝山七海, 松下聡, 宇野朋子, 猪股圭佑

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
を				
77. ネア・モニ修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 その3 - 内ナルテクスを中心として-	単	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp. 246~247	ゼミにおける研究指導 兵庫県神戸市西区の二ツ屋地区は、農業を営む住民とそれ以外の仕事をする住民がおり、農家以外の住民は農業に関わることなく生活し、田園地域に足を踏み入れることはほとんどない。そこで本設計では、農家以外の住民の日常生活の中に田園風景を取り込み、二ツ屋の魅力が感じられる、地域の活性化を試みる。町の中心には榎谷川が流れており、この川を境としてその西側の二ツ屋には市街地、東側には田園地域が広がっているため、住民の生活から農業が切り離され、土地と住民の繋がりが弱いと考え、西の市街地と東の田園地域の架け橋になる風景をつくることを目指した。 本稿ではネア・モニ修道院聖堂における壁画の主題及び配置を分析し、建築と壁画の統合的理解を試みた。ネア・モニ修道院聖堂内ナルテクスは単にナオスに付属する前室ではない。そこは壁画の配置によってナオス、ペーマと繋がり、ドームで「受肉」を表現する西から東へ向かう空間に、「昇天」「再臨」を表現する北から南へ向かう空間が重なっている。ネア・モニ修道院聖堂ではナオスで「皇帝の勝利」を称え、内ナルテクスで「受肉」を表現する神聖な建築的空間が形成されている。
78. 結 musubi - デッキでつながる駅前交流空間-	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築デザイン, pp. 162~163	深井莉奈, 松下聡, 宇野朋子, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本設計にあたり、学校施設と地域公共施設が複合化した既存建築の複合形態を融合型、隣接型、分離型の3つに分類し、調査及び分析を行った。これを参考に、学校施設の防犯面や各施設の動線計画、また、児童生徒と地域の人が自然と交流する場面をつくるための空間構成などの特質をまとめた。敷地は、大阪府池田市の阪急池田駅北側である。高架の駅からは歩道橋を通り敷地内へアクセスができ、周辺には、市役所、郵便局、警察署、商店街、商業施設などが集まり、市民が集いやすい場所である。そこに、駅から連続するデッキ空間を設け、駅-建物、建物-建物、建物-人、人-人の結びをつくる。また、5つのデッキ空間を立体的に構成し、各施設の利用者のコミュニティを形成する。
79. 磯崎新の建築における瞑想空間とピラミッド型屋根との関係について	共	2022年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集, 建築歴史・意匠, pp. 241~242	橙麻実, 松下聡, 宇野朋子, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は磯崎新の設計した複数の美術館で用いられたピラミッド型屋根が磯崎にとってどういう意味を持つのかを明らかにするものである。瞑想のための空間に着目し、美術館の設計におけるピラミッド型屋根の下の空間の変化を調査し、ピラミッド型屋根とその下の空間の関係の解明を試みた。磯崎にとって展示空間は瞑想を期待する空間であり、瞑想する空間の象徴的形態としてピラミッド型屋根が用いられ、その後、瞑想を期待する展示空間での作品の構成が変化し、空間自体が展示作品の一部となった。その変化に応じてピラミッド型屋根が解体され、屋根がそれぞれの展示作品を完成させる形態に変化したと考えられる。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
1. 警視庁東京湾岸警察署	共	2008年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計を担当。 所在地：東京江東区青海 用途：警察署、寄宿舎 構造：地上9階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積：5000㎡ 延床面積：16914.11㎡ 平面計画における特徴的な部位（見張台、取調室、運動場、留置事務室、便所等）を明快に表現する立面とし、臨海副都心という地域性を考慮したデザインの警察署とした。1～6階警察署の一般動線、7・8階単身寮の職員動線、3・4階大規模留置施設や集中取調室の護送動線を分離し、設計条件を満たすゾーニングを行った。
2. 東京建物仙台ビル	共	2009年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計、現場常駐監理を担当。 所在地：仙台市青葉区中央 用途：事務所

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
3. 横浜市庁舎耐震補強	共	2009年竣工	東畑建築事務所	<p>構造：地上20階 地下3階 鉄骨造（一部CFT造、鉄骨鉄筋コンクリート造） 敷地面積：2359.43㎡ 延床面積：28496.69㎡ 高速バス施設の併設及びバスベイの整備、仙台駅前ペデストリアンデッキの延伸・接続等の都市貢献により、都市再生特別地区を実現した。その結果、基準容積率600%に対し、容積率1100%を獲得している。仙台の玄関口に相応しいファサード・駅周辺からの顕示性・周辺建物との差別化・圧迫感の軽減等を具現化する為、隅角部と頂部が曲面のガラス建築とした。 積算資料2010年5月号、近代建築2010年5月号、あたらしい照明vol.149平成21年照明普及賞号、日本建築学会東北支部東北建築作品集2010に掲載。 照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞。 基本設計及び実施設計を担当。 所在地：横浜市中区港町 用途：庁舎</p>
4. 税務大学校大阪研修所	共	2013年竣工	東畑建築事務所	<p>構造：地上8階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積：16472.97㎡ 延床面積：20756.45㎡ 村野藤吾氏設計の横浜市庁舎において、「地下1階柱脚免震工法」により、耐震補強を行った。市庁舎としての機能を継続しながら耐震補強を行う「居ながら工事」を可能とした。また、同時に法適合改修や設備改修等を行い、機能向上を図った。 平成22年度東畑建築事務所社長賞を受賞。 基本設計及び実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市香里ヶ丘 用途：研修所（学校、寄宿舎、体育館）</p>
5. 大阪府立職業技術専門校北部校	共	2013年竣工	東畑建築事務所	<p>構造：地上7階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：26767.35㎡ 延床面積：13111.57㎡ 税務職員の研修所として、「管理研修棟」「学寮厚生棟」「体育館」を設計した。機能の違うそれぞれの施設を分棟配置して、屋根付き渡り廊下でつなぎ、雨天時などの利便性に配慮した。造成工事を少なくするため、敷地の高低差は概ね既存のままとし、「管理研修棟」をエントランス広場のレベル、「学寮厚生棟」と「体育館」を「管理研修棟」2階レベルとして、「研修の場」と「生活の場」の大きなゾーニングを行った。既存緑地帯を保全し、各棟を低層から高層へとセットバックする構成として、周辺への圧迫感を軽減した。 実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市津田サイエンスヒルズ地区 用途：職業訓練校</p>
6. 国際法務総合センター	共	2017年竣工	東畑建築事務所	<p>構造：地上4階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：14041.65㎡ 延床面積：10400.05㎡ 「ものづくり」だけでなく「ひとづくり」を支援するため、「コミュニティストリート」「アメニティコート」等を提案した。訓練生同士や教官だけでなく、本地区に集う人たちの交流・対話の場を創出を目指した。</p>
7. 阪神鳴尾駅	共	2017年3月18日上りホーム完成	阪神電気鉄道株式会社、設計協力	<p>矯正医療センター診療棟（地上3階 約3700㎡）及び講堂棟（地上2階 約850㎡）の基本設計及び実施設計を担当。 所在地：東京都昭島市 用途：医療刑務所、研修所、少年鑑別所、宿舍 構造：地上9階 地下1階 鉄筋コンクリート造 敷地面積：125791㎡ 延床面積：約120000㎡ 「環境共生・未来矯正施設」として計画された。既存生物や周辺植生との共生を図り、建物高さを抑え、オオタカの営巣期間を避けた建設工期としている。矯正医療センター（医療刑務所）では、医療と矯正の融合を目指し、植栽の配置や開口部の確保等において、収容環境の改善を提案した。 外観及び内観デザインなどの設計協力をを行った。 所在地：西宮市里中町3丁目 用途：駅</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
8. エネマネハウス	共	2017年12月	エネマネハウス 2017	<p>構造：地上2階 鉄骨造</p> <p>駅舎の空間が基本的に備えるべき特質である記号性を追求し、波型鋼板を用いて、単純、均質な空間を構成した。階段や改札口、エスカレータ、エレベーター、サインなどが他に邪魔されることなく、くっきりと浮かび上がって見える必要があるため、屋根を支える梁や小梁、照明や通信のための配管などが眼に入らないように、下地材や仕上げ材が一切不要な波型鋼板のディテールを検討した。壁と屋根面が一体となった曲面による空間の中に、上り、下りそれぞれのホーム階を包み込む。これにより、先端技術の象徴でもある、高速走行する電車に良く調和した、流動的でダイナミックな駅舎空間ができていく。</p> <p>基本設計及び実施設計を担当、授業における指導。</p> <p>会場：大阪市うめきたサザンパーク（うめきた2期B区域）</p> <p>用途：住宅</p> <p>エネマネハウス2017に応募、採択され、モデル住宅「キセカエハウス」が大阪・梅田のうめきたサザンパークにて一般公開された。住み心地がよく、家族や地域と積極的な交流を生むZ E H（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）である。本提案では、“住まうこと”とは、住まい手自らが自然環境やライフスタイル、地域との繋がりに応じて住宅をつくりかえてゆくことと考えた。そしてそれらを、伝統的住環境技術を用いた「変化するしつらえ」によって実現した。</p>
9. 武庫川女子大学景観建築学科新校舎	共	2021年竣工	武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）	<p>基本設計、実施設計、工事監理を担当。</p> <p>所在地：西宮市戸崎町</p> <p>用途：大学</p> <p>構造：地上2階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造（景観建築スタジオ東館）、地上3階 鉄筋コンクリート造（景観建築スタジオ西館）</p> <p>敷地面積：35625.77㎡ 延床面積：1087.68㎡（景観建築スタジオ東館）、延床面積：2669.20㎡（景観建築スタジオ西館）</p> <p>屋外空間、自然を総合して豊かな景観を創生する教育と研究を行うため、敷地全体の整備、保存を緑化、都市景観の視点から実施した。東館は大きな屋根と庇のある外観で、景観建築学科1年生のスタジオを設けた。緑釉瓦や石、装飾タイルなどの伝統的材料を現代建築に取り込んだ優美なデザインで、名建築「甲子園会館」のデザインを継承する。西棟は松や楠の大木のある中庭を挟んで建築スタジオと対面し、プレキャストコンクリートの新たな可能性を追求した。両建物の列柱が、軽やかなリズムを生み出す。景観建築学科2年生以上のスタジオのほか、講評室やラウンジを備える。</p>
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 杜の都のランドマーク 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	財団法人経済調査会 積算資料2010年5月号 前文 pp.53-58	<p>木村裕志、猪股圭佑</p> <p>全文執筆</p> <p>竣工写真や図面を引用しながら、設計から監理に至る約3年半に渡る過程を振り返り、設計の過程やデザインの特徴、現場での試行錯誤等を記した。</p>
2. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	照明学会 あたらしい照明vol.149 平成21年照明普及賞号 p.11	<p>宮崎洋一、佐藤栄志、猪股圭佑、小島義包</p> <p>建築計画他及び全文の取り纏めを担当</p> <p>竣工写真を引用しながら、建築計画、照明計画の概要を記した。照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞。</p>
3. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	近代建築社 近代建築2010年5月号 pp.95-100	<p>木村裕志、猪股圭佑、西原慎一、小島義包、古川和彦、大崎勝雄、菅野勉</p> <p>建築計画他及び全文の取り纏めを担当</p> <p>竣工写真や図面を引用しながら、建築計画、構造計画、設備計画、施工計画の概要を記した。</p>
4. 東京建物仙台ビル	共	2010年09月	日本建築学会東北支部 東北建築作品集2010 pp.54-55	<p>清野真一、木村裕志、猪股圭佑</p> <p>全文執筆</p> <p>竣工写真や図面を引用しながら、建築計画の概要を記した。第21回東北建築作品集発表会一般建築物部門にて発表。</p>
5. 東日本大震災を経験してー東京建物仙台	共	2012年03月	財団法人経済調査会経済調査研究所	<p>木村裕志、猪股圭佑</p> <p>全文執筆</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
ビル			経調レビュー 2012 vol.10 pp. 018-023	「東京建物仙台ビル」は、竣工後2年余で東日本大震災に見舞われたが、ほぼ無傷の状態迅速な復旧を果たした。本稿では、設計段階における防災対策と、震災発生から復旧までの経過をまとめた。大規模建築の設計において、非常時に建物が倒壊せず人命を保護することは、最低限の条件であるが、今後はさらに、災害発生時に受ける被害を可能な限り少なくして、建物機能を維持し、地域の防災拠点として機能するという役割が、期待されるだろう。それは、街を創造していく立場でもある建築設計者が、担うべき都市貢献の一つでもあると思われる。
6. 研究費の取得状況				
1. ビザンティン聖堂のキリスト教絵画にみる自然観に関する研究	単	2013年	平成25年度 科学研究費補助金学内奨励金	コーラ修道院におけるキリスト教絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。コーラ修道院のドームにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。絵画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデントィブヤルネットが二つの世界を区分している。これにより、キリスト教絵画による3次元のビザンティンの宗教的空間が構成されていることを考察した。 奨励金支給額 90万円
2. ビザンティン聖堂における壁面装飾によって構成された建築空間に関する研究	単	2015年	平成27年度 科学研究費補助金学内奨励金	美術、建築、キリスト教関係資料の調査を行い、各聖堂のモザイク及びフレスコをレイアウトした展開図、合成写真を作成し、壁面装飾によって意味付けされた建築空間について明らかにした。展開図、合成写真は、建築史、美術史分野における研究発展に役立つだけでなく、貴重な文化遺産の保存に繋がると考えられる。 [投稿雑誌論文] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画による内ナルテクスを中心とした空間構成」 日本建築学会計画系論文集 第80巻 第716号, pp. 2403-2411, 2015.10 (査読あり) [学会発表] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 335~336, 2015.9 木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑: 「カッパドキアの岩窟聖堂における祭室及び窓の位置」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 337~338 奨励金支給額 42万円
3. ギリシア、オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成	単	2017年	平成29年度 科学研究費補助金学内奨励金	オシオス・ルカス修道院聖堂における空間構成の特徴を明らかにすることは、どのように神聖な宗教的空間が創造されたかを理解し、複雑な平面を持つビザンティン聖堂建築の空間構成における重要な特徴の一端を明らかにすることに繋がると考えられる。 [投稿雑誌論文] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院聖堂におけるパレクレシオンの空間構成－墓室と絵画との関係に着目して－」 (査読あり) 日本建築学会計画系論文集 第82巻 第738号, pp. 2151-2161, 2017.8 [学会発表] 猪股圭佑: 「オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 - ルカスの墓と絵画との関係に着目して-」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 879~880, 2017.8 奨励金支給額 80万円
4. ギリシアの中期ビザンティン聖堂建築における絵画の配置による空間構成の分析	単	2018年04月～2022年03月	日本学術振興会 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究基金	建築空間において壁面や天井面は純粋な内装仕上としてあるだけではなく、本来は空間全体を装飾するものとしての重要な意味を持っていたはずである。「建築と絵画がどのような意図に基づき一体的に計画されたのか」が本研究の問いである。本応募研究課題ではギリシアの中期ビザンティン聖堂建築の代表作と称される3聖堂、すなわちオシオス・ルカス修道院聖堂、ダフニ修道院聖堂、ネア・モニ修道院聖堂における実地調査を行って、キリスト教絵画の主題及び配置による空間構成を分析し、建築と絵画の統合的理解を試みる。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

6. 研究費の取得状況				
5. 12世紀シチリアのノルマン聖堂建築における壁画の配置による空間構成の分析	単	2022年4月～2026年03月	日本学術振興会 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 若手研究 基金	<p>絵画を含めた空間全体を図式化して建築的空間の意味を解釈し、絵画の主題と配置によってどのように空間全体が意味づけられ、神聖な宗教的空間が創造されたかを知り、複雑な平面を持つビザンティン聖堂建築の空間構成における重要な特徴の一端を明らかにすることに意義がある。</p> <p>助成金額 416万円</p> <p>建築空間において壁面や天井面は純粋な内装仕上としてあるだけではなく、本来は空間全体を装飾するものとしての重要な意味を持っていたはずである。12世紀シチリアのノルマン聖堂建築では、どのように神聖な宗教的空間が創造されていたのだろうか。「建築と壁画がどのような意図で計画されたのか」が本研究の問いである。本応募研究課題ではシチリアのカッペッラ・パラティーナ、ラ・マルトラーナ聖堂、モンレアーレ大聖堂、チェファルー大聖堂における実地調査を行って、壁画の主題及び配置による空間構成を分析し、その特徴を明らかにする。壁画を含めた空間全体を図式化して空間の意味を解釈し、壁画の配置によってどのように神聖な宗教的空間が創造されたかを知り、ノルマン聖堂建築における建築と壁画の統合的理解を試みる。ここで得られる知見はビザンティンとイスラム、西ヨーロッパという異文化共存によるデザインの重層性の解明に繋がる意義がある。</p> <p>助成金額 468万円</p>

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2002年～現在	日本建築学会
2. 2022年～現在	兵庫県建築士会